

氏名	原 田 仁 史
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1727 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年12月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	中枢神経障害による胃粘膜障害の研究 第 1 編：ヒト脳血管障害における内視鏡的検討 第 2 編：ラット胃粘膜 prostaglandin E_1 を中心として
論 文 審 査 委 員	教授 木村郁郎 教授 太田善介 教授 西本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第 1 編：脳血管障害の59例に対し上部消化管内視鏡検査を施行し32例，54.2 %に急性胃病変を認めた。内視鏡検査実施時期は平均 3.1 日であり，42例は 2 日以内に行った。胃体部には点状出血，びらんが多く，十二指腸には潰瘍が多かった。上部消化管病変は，脳血管障害発症後 2 日以内は胃体部に発生する点状出血，びらんが多く，潰瘍は 3 日以後に主に認められた。前者による出血は保存的に治療できることが多く，後者は治療に抵抗することが多かった。

第 2 編：ラットを用い胃粘膜 prostaglandin E_1 を測定し，水浸拘束群，脳障害群における PGE_1 の変化と各種薬物負荷における PGE_1 の変化を粘膜障害の程度と併せて検討した。 PGE_1 は水浸拘束群では粘膜障害とともに負荷直後より高値を示し，脳障害群では粘膜障害の亢進した 6 時間で高値を示した。

脳障害群では交感神経優位の状態に基づいて胃粘膜障害が発生していると考えられた。胃粘膜内 PGE_1 の変化は実験潰瘍の種類，及び負荷薬物の種類に関係なく粘膜障害の程度に応じて変動していると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は中枢神経障害による胃粘膜障害について実験的ならびに臨床的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかったヒト脳血管障害における内視鏡的検討とかラット胃粘膜の PGE_1 などについて検討し，交感神経優位に基づいて早期に点状出血，びらんを認め次いで潰瘍の発生があり， PGE_1 の高値は薬剤に関係なく粘膜障害によっておこることを認

めており、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。